

1 落書きのないまちづくり事業（市提案）（キープ鎌倉クリーン会議、環境保全課）

Q 市に聞きたいことだが、落書き防止を条例化したのに、落書き件数は増えているが、それに対する対応はどうしているか。団体ががんばっているのに歯がゆい状況である。積極的な対応をお願いしたい。

A（担当課）落書きはすぐに消し、落書きしにくい状況を作るという方針である。落書きの対象は公共物が多いので、県とも連携していきたい。警察からは、個々の対応は難しいと言われており、解決の決め手は難しい状況ではある。

Q 落書き犯は、具体的にどこの誰かわかっているのか。

A（団体）それがわかれば解決である。今後も継続して落書きを消していくしかないが、「落書き110番」を担当課に設置し、市の職員が落書きを見つけたら通報するというしくみをつくることも大事だと思っている。

Q 行政連携が大事ということだが、そのゴールはどのように考えているか。

A（担当課）市長会を通して県に要望を出した。県から話もあり、5月末からこれまでに3回会合を持ったところである。当面の目的は犯人の特定である。条例化は、県の条例なので県の内部で検討している。

Q 活動費と交通費の予算の詳細、内訳を教えてください。交通費は少なすぎるのではないかと。これで協働と言えるのか。

A（団体）年間15万円が総額だが、活動費は資料作成費や用具購入である。額の多寡についてはみなさんに判断をまかせたい。作業は膨大で、大変なのは確かである。

Q 適正な人件費を支払うべきという課題についてはどう考えているか。

A（担当課）事業実施から3年間を経過し、引き続き実施しているが、15万円の額はそのままであり、人件費を上乗せして計上できる状況ではない。

Q 落書きがゼロになるまで継続できる仕組み、体制のイメージを聞きたい。

A（団体）落書きのないまちは「当たり前」だが「稀有」なことなのである。市は広報が足りないと思っている。データの活用が不足していると思う。